

発足後間もない技術職員組織による地域の子ども向け科学技術啓発イベント (琉大 iTec フェスタ) 開催について

○屋良 朝宣、儀間 真一、渡慶次 高也

琉球大学総合技術部

1. はじめに

琉球大学では令和 5 年 10 月に全学の技術支援組織として総合技術部（琉大 iTec）が発足した。琉大 iTec は教育学、理学、医学、工学、農学、機器分析など数多くの技術分野の技術職員を集結して発足された組織であるが、発足前や発足後間もない頃は、構成員の多くが連携・協力するような取組みは実施していなかった。そのような中、琉大 iTec の多くの職員が関わり、地域の子ども向け科学技術啓発イベントを実施した。本報告では、その取り組みを紹介する。

2. 琉大 iTec フェスタの実施内容

琉大 iTec フェスタ（以下、イベントとする）では 11 テーマ（図 5～16）を企画し、開催案内は大学公式 HP や総合技術部 HP での周知、関係機関（小学校、道の駅等）へのフライヤー配布、SNS でのイベント案内等により子ども（小学生）100 人程度を目標に参加を募集した。当初、イベントは令和 6 年 9 月開催を予定していたが台風接近に伴い同年 11 月に延期して開催した。開催場所は琉球大学千原キャンパスである。イベント当日には、73 組の親子（92 名の子ども）が参加した。イベント開催時間は 13:00～16:30 の 3 時間半実施した。イベント参加者（子ども・保護者）にはアンケート回答を依頼した。

3. 参加者アンケートの回答結果について

参加した子どもの学年は低学年（1-3 年生）が多かった（図 1）。イベントを知ったきっかけは、「口コミ」とする回答が 36 人（全体の 42%）と最も多かった（図 2）。「参加したテーマは楽しかった」とする子どもの回答が 93%あり（図 3）、保護者についてもほぼ 100%に近い保護者から「そう思う」と回答があった（図 4）。アンケートの結果から、イベントに参加した多くの子どもとその保護者にイベントが好評だったと感じられた。

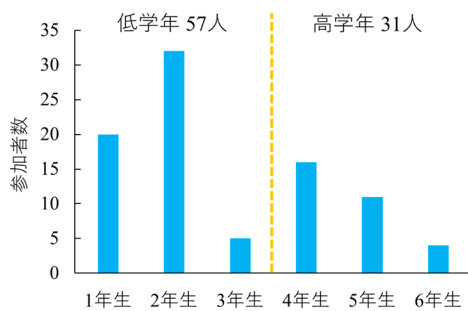


図 1 参加者の学年分布 (n=89)

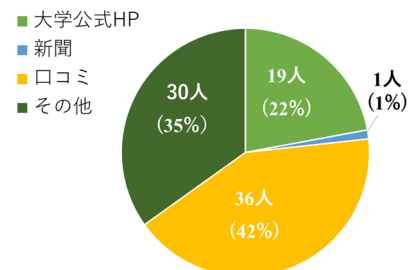


図 2 イベントを知ったきっかけ (保護者回答 n=85)

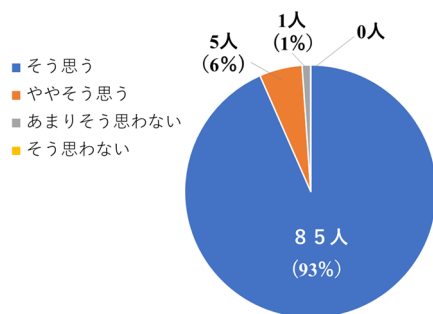


図 3 参加したテーマは楽しかったですか？ (子ども回答 n=91)

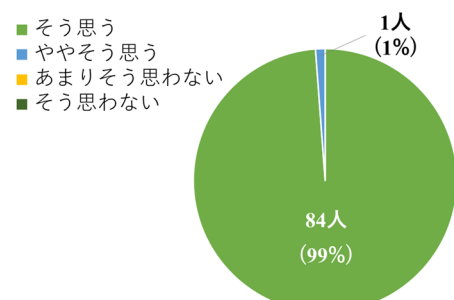


図 4 お子さんを参加させて良かったと思いますか？ (保護者回答 n=85)

4. 琉大 iTec フェスタ実施後のまとめ

イベントスタッフとして当日 49 名、事前と事後のスタッフ 14 名を合わせた計 63 名（職員数の 75%）の総合技術部職員が本イベントに関わった。本イベントの企画、準備および開催に関わった職員が同じ時間、同じ困難を共有することで、組織の協力体制向上に繋がる貴重な機会となったと考えられる。



図 5 テーマ 1
キッチンで身近な食べ物の
DNA を取り出そう



図 6 テーマ 2
顕微鏡で見るミクロな世界！



図 7 テーマ 3
ものづくり工作教室
ホバークラフト



図 8 テーマ 4
ものづくり工作教室
ミラクル万華鏡

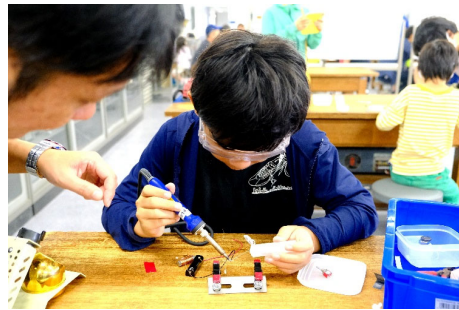


図 9 テーマ 5
ものづくり工作教室
まわり続けるコマ



図 10 テーマ 5
ものづくり工作教室
電気工事体験



図 11 テーマ 7
ものづくり工作教室
折り紙建築

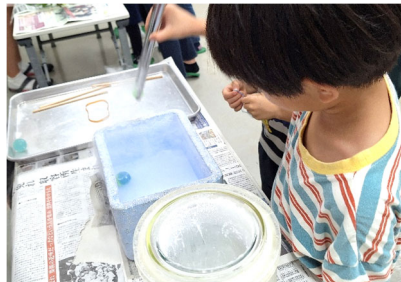


図 12 テーマ 8
超低温実験体験



図 13 テーマ 9
ワイルド・ワンダーランド
サンゴや海の生き物紹介



図 14 テーマ 9
ワイルド・ワンダーランド
クログ熱帯魚づくり



図 15 テーマ 10
新しい『体験型』食時診断



図 16 テーマ 11
大学の実験室見学